

一般会計

歳出 252億9,356万円 (21年度比-1.1%)

市民一人当たりに使った
お金に換算すると・・・ **→ 49万1,614円**

※22年度末住民基本台帳
人口51,450人で算出

民生費(+9.8%)	62億3,478万円	24.6%
公債費(-4.2%)	50億 2万円	
総務費(-1.5%)	24億7,718万円	
教育費(-6.8%)	23億 505万円	
農林水産業費(-10.3%)	21億2,515万円	19.8%
土木費(-10.4%)	20億 503万円	
衛生費(-8.7%)	16億9,646万円	9.8%
消防費(+5.9%)	8億6,780万円	9.1%
商工費(-28.3%)	6億1,482万円	8.4%
議会費、災害復旧費 労働費、諸支出金 (+26.9%)	19億6,727万円	7.9%
		7.9%
		6.7%
		3.5%
		2.5%
		7.7%

()内は、対21年度比



赤ちゃんおでかけ応援事業

▲民生費＝92万円。赤ちゃんを連れて外出しやすいようにベビーシートやベビーカーを整備しました



市内保育所耐震補強・改修事業

▲民生費＝1億998万円。安心して園児が過ごせるよう賀集保育所・二宮保育所の耐震補強・改修事業を行いました



元気出そう!商い応援振興券

▲商工費＝2億2,188万円。市内経済活性化のため、2億円分の振興券を発行しました

指標	南あわじ市		早期健全 化基準	財政再生 基準
	22年度	21年度		
実質赤字比率 (普通会計の赤字から財政運営の深刻度を見る比率)	-	-	12.65	20.00
連結実質赤字比率 (全ての会計の赤字から財政運営の深刻度を見る比率)	-	-	17.65	35.00
実質公債費比率 (借金の返済額等の大きさから資金繰りの危険度を見る比率)	18.2	19.8	25.0	35.0
将来負担比率 (市が抱える負債の残高から将来財政への圧迫度を見る比率)	185.5	224.9	350.0	-

※赤字が生じない場合は、「-」と表示

指標	南あわじ市		経営健全 化基準	備考
	22年度	21年度		
資金不足比率 (企業会計の資金不足割合から経営状況の深刻度を見る比率)	-	-	20.0	会計毎に算定

※資金不足が生じない場合は、「-」と表示

22年度は「着実に前進する年」として売り出す、**生み出すことへの挑戦・安心で安全なまちづくりへの挑戦・強固な行政基盤づくりへの挑戦**という理念のもと、「自立への挑戦」を継続してきました。

具体的には、市制5周年記念事業の一環として、「NHKのど自慢」を誘致し、市を全国にPRしました。また、前年度に引き続き、「元気出そう!商い応援振興券」の発行や「緊急雇用対策事業」を実施し、生活対策や地域商工業の活性化を図りました。

安心して安全なまちづくりとしては、市内保育所の耐震補強改修工事(賀集保育所・二宮保育所)や、市内15か所の公共施設のトイレにベビーシート等を設置しました。そのほか、ほ場整備や小中学校の大規模改造、道路の維持補修・新設改良など、市民生活に密着した事業を進めました。また、市債残高は約9億円の繰上償還を実施したことや、水道事業会計に係る市債残高が淡路広域水道企業団に移行したことなどによって、前年度より約86億円減少しました。

平成22年度 決算状況報告

図財政課 ☎50-3033

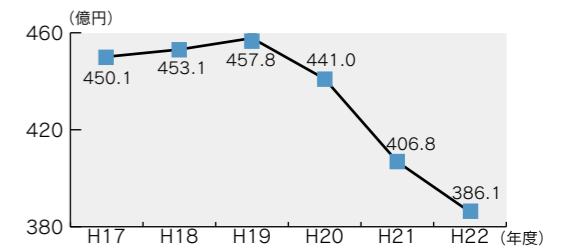
22年度の一般会計の決算額は、歳入262億7,989万円、歳出は252億9,356万円で23年度への繰越財源3億1,016万円を差し引き、6億7,617万円の黒字となりました。ただし、歳入の中には前年度からの繰越金が、歳出の中には市債の繰上償還額などが含まれているため、それらの影響を除くと13億7,526万円の黒字となります。

歳入 262億7,989万円 (21年度比0.0%)

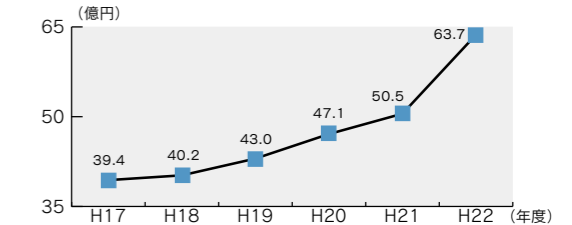
36.5%	地方交付税(+8.4%)	95億9,765万円	
	市税(-1.1%)	59億5,380万円	
	市債(-4.7%)	22億2,820万円	
	国庫支出金(-22.8%)	20億1,966万円	
	県支出金(-4.9%)	17億2,576万円	
	諸収入(+62.1%)	14億1,860万円	
	使用料・手数料(+1.6%)	6億 185万円	
	繰入金(-58.6%)	4億1,801万円	
	その他(+7.1%)	23億1,636万円	
	22.6%		
	8.5%		
7.7%			
6.6%			
5.4%			
2.3%			
1.6%			
8.8%			

()内は、対21年度比

区分	22年度末	市民1人当たり
一般会計市債残高	386億1,240万円	75万 484円



区分	22年度末	市民1人当たり
一般会計基金残高	63億7,270万円	12万3,862円



区分	22年度末	市民1人当たり
市民税	21億 423万円	4万 898円
固定資産税	33億3,662万円	6万4,852円
軽自動車税	1億6,251万円	3,159円
市たばこ税	3億1,004万円	6,026円
入湯税	4,040万円	785円
合計	59億5,380万円	11万5,720円



衛星携帯電話の整備

▲消費費＝974万円。災害時の孤立集落対策のため衛星携帯電話の使用環境を整備しました

この決算状況を「月収30万円の家計」に例えると...

収入		支出	
給与	30万円 (+21,800円)	食費 (人件費、退職金含む)	6万7,000円 (-1,700円)
うち基本給 (市税など)	24万2,700円 (+9,300円)	医療費 (扶助費)	4万6,900円 (+9,400円)
諸手当 (特別地方交付税、使用料など)	5万7,300円 (+12,500円)	ローンの返済 (公債費)	7万7,800円 (+2,500円)
前月からの繰越金 (繰越金)	11,000円 (-600円)	光熱水費や通信費など (物件費)	4万6,200円 (-4,900円)
親からの援助 (国・県支出金)	5万8,300円 (-10,600円)	家・車・電化製品の修理や買換 (維持補修費、普通建設事業費)	3万9,400円 (-13,700円)
銀行からの借入 (市債)	3万4,700円 (-1,700円)	交際費・子どもへの仕送り (補助費、繰入金など)	9万 700円 (-2,500円)
貯金の取り崩し (基金繰入金)	5,000円 (-8,800円)	貯金 (積立金)	2万5,600円 (+6,600円)
計	40万9,000円 (+100円)	計	39万3,600円 (-4,300円)

()内は、21年度との比較

これが多いと、一般家庭のエンゲル係数が高いことと同じで、家計にあまり余裕がないことを意味します。

義務的経費 ↓ 南あわじ市 48・7%

毎月の出費が約39万円。月収30万円では足りません。不足分を親からの援助や銀行からの借入、貯金の取り崩しでまかっています。

来月への繰越金 1万5,400円 (+4,400円)